

平和啓発講演会記録

はじめに

西村です。暑い中、参加していただきありがとうございます。戦争の経験談を全部お話すると、時間が足りないので、私の東京大空襲の時の体験を中心に話します。よろしくお願いします。

東京の地下鉄に東西線というのがあります。中野から西船橋までいく鉄道ですが、その建設中（戦後22年目）に、門前仲町（私の出身地）の地下を掘っているときに戦争中の防空壕にぶつかりました。戦争が終わって22年も経っているにもかかわらず、中から遺体が3体出てきました。それは、1945年3月10日の東京大空襲の時のものです。3体の遺体は、持ち物から身元が判り、戦後22年目にして、家族の元に帰りました。深川の辺りには、まだ埋まっている人がいるだろうと思います。なぜなら、本所、深川というところは、一番被害の大きい土地ですから…。

東京大空襲まで

日米戦争が始まって、半年間は日本軍が勝っていました。半年後のミッドウェイ海戦を機に負け始めました。そして、敗戦となります。

米軍は日本と開戦する以前から、長距離爆撃用の飛行機の開発に着手していた模様です。その飛行機がB29です。一説によると、B29の開発には、原爆よりも費用と時間がかかったともいわれています。現在のジャンボ機など大型機の基本設計はB29だそうですから、高性能だったことが分かります。

1944年6月15日、B29による爆撃が北九州から始まりました。この時のB29は中国から飛来しています。B29の基地があった中国の奥地、成都は燃料の補給がヒマラヤ越えで行われていました。そのため、成都からの爆撃は困難なものであったようです。



そこで、日本の近くから爆撃に出発できるように、サイパン、テニアン、グアム島を占領し、B29の基地を作りました。サイパン島には沖縄からの移民がいたため、一般住民も相当の被害を受けました。テニアンに住民は多くなかったでしょうが、後にここから原爆を積んだ飛行機が出撃することになりました。そして、米軍はこの3つの島に5つのB29の基地を作ります。これらの島は現在リゾート地ですが、私はそうは思いません。とても、遊びに行こうとは思いません。

サイパンが占領され、日本への爆撃が近いことが分かると、学童疎開が始まりました。羽村や瑞穂には品川からの学童が集団疎開してきたと思います。3年生より上は、強制疎開でした。田舎のある人は田舎に、ない人は学校で集団

疎開していきました。そして、都心から、小学生がいなくなりました。

1944年11月1日、B29が1機、東京に飛来（正確にはF13）しました。秋空の下で、私はビックリしました。1942年4月18日にB25が16機で爆撃して以来、初めての空襲警報の発令でした。1機のみが東京上空を飛ぶだけで爆撃はありませんでした。

5日、7日と空襲警報が発令されましたが、何事ありません。ただ、東京上空を旋回するだけでした。それは、空襲計画を立てるために約3,000枚の写真を撮って東京上空を偵察していたとのこと。私は3回の警報が発令される中、何も起きないので、あまり心配していませんでした。

しかし、11月24日に再び空襲警報発令。何もなさだろうと思っていたら、90機が飛来、爆撃を開始しました。第1目標は中島飛行機武蔵製作所（武蔵野市）でした。

B29を用いての初空襲であったため、111機が出撃しましたが、90機が東京に到達できました。雲が多かったこの日、目標に高高度精密爆撃ができたのは、90機中20機ぐらいだったそうです。



残りの飛行機は、第2目標の東京の市街地に爆撃しました。

同年11月27日の爆撃では、渋谷、江東、江戸川、港区に被害があり、怖い体験をしました。当時、私は学徒動員で、工場で働いていましたが、10機前後の編隊を組んだB29が、爆撃を開始したときは、頭上から雨が降ってきたような音がしました。最初はなんだ？と思いましたが、直ぐに爆弾だと気付いて防空壕に飛び込みました。その直後、付近に爆弾が落ちて、壕がグラグラと揺れました。幸いにも自分達の工場には爆弾は落ちず、隣の工場に落ちました。大変怖い経験でした。

当時の米軍は、戦略爆撃の基本に高高度精密爆撃を位置付けています。東京での第1目標は、大体が中島飛行機武蔵製作所です。この工場は、日本の戦闘機の8割のエンジンを作っていたために目標となりました。

高高度精密爆撃は地上10,000mからの高所爆撃のため、なかなか命中しませんでした。B29は日本へ富士山を目標に飛来し、富士山上空で東に進路を変更し、中央線沿いに東京へ、そして、千葉、九十九里を通り、サイパンに帰るというルートでした。しかし、日本の上空は、偏西風（ジェット気流）が吹いているため、大変なスピードになってしまい目標への爆撃が難しかったのです。

このような問題から、戦果が上がらなかった当時の爆撃司令官ハンセルは、効率的に爆撃を行うために無差別市街地爆撃をするように命じられますが、高高度精密爆撃で軍事施設や工場などの爆撃を主張して、拒否しています。そのため、1945年1月20日、ワシントンはハンセルを罷免し、新たにルメ

イ少将をB29爆撃司令官に任命します。ルメイ少将も当初、高高度精密爆撃を行っていましたが、戦果が上がらなかったため、夜間に超低空からの無差別市街地爆撃を行う考えへと変わりました。その最初の日が3月10日で、東京大空襲となったわけです。

B29について

B29は、当時、優れた飛行機で、翼の長さが43m、長さ30mと大変大きい機体でした。機銃は13丁で、大きいものは最後尾の機関砲です。これらの機関砲で、日本の迎撃機は撃たれ、多数撃墜されています。B29には、スーパーフォートレス（超要塞）という名があり、日本では「超空の要塞」と呼ばれていました。また、フォートレスという爆撃機はB17といい、ヨーロッパ戦線で活躍しています。つまり、B29とは日本爆撃用に開発された飛行機なのです。

当時の米軍の爆撃は、高高度精密爆撃が基本理念であったため、B29も高高度飛行ができるように、内部が気密室になっていて、軽装でも搭乗ができるようになっていました。

焼夷弾について

続いて、焼夷弾の開発の話です。それまでにもM50とかM47という焼夷弾がありましたが、新たにM69という焼夷弾を開発しました。アメリカの国内に日本家屋の町を造りあげ、テストを繰り返して、このM69が一番有効だということで使用されました。他にももちろん使われましたが、3月10日の東京大空襲のときはM69がほとんどでした。

M69は、長さ約70cm、直径8cmの六角形の筒状をしています。円筒でないのは束にし易いためです。このM69を19発を束にして、その束を2つなげて1発の焼夷弾ができます。

つまり、1発の焼夷弾はM69が19発×2、38発で構成されています。

M69の中には、生ゴムをベンジンで溶かしたゼリー状のナパーム剤が入っていて、落下すると、それに火がついてM69の筒から猛烈な勢いが吹き出て、辺り一面火の海になります。叩いても、こすっても、消せません。

M69の一つひとつに3mぐらいの布がついていて、爆弾が横になることはなく、必ず縦になって落ちてきます。この布がブレーキの役割をして、日本家屋の室内に留まるよう工夫がされていたのです。この38発の束になっている一発の焼夷弾が、500m上空で締めているベルトが外れてバラバラに落ちてきます。つまり親子爆弾です。バラバラになったときにその布に火がついて、38発がひらひら落ちてくるため、地上から確認ができました。

原爆について

原爆投下の候補地は、新潟、横浜、京都、小倉、広島、長崎であったため、

これらの都市は、当初は、空襲を受けていません。(横浜は1945年5月29日にB29、500機、P51戦闘機100機の攻撃を受けています)また、球形のパンプキン爆弾で原爆投下の予行演習をしており、東京にも1回落とされています。

東京大空襲 3月10日 未明

ルメイの指揮で、人を殺傷することを目的に爆撃する無差別市街地爆撃が始まります。このため、人口密度の高い場所が第1目標となり、この日は、木場・本所・浅草・日本橋を結んだ5km四方だけを集中的に爆撃する計画でした。



1945年3月10日、0時08分、298機のB29から爆撃が開始されました。これまでの高高度からの爆撃ではなく、超低空(地上3,000m以下)からの爆撃に変わっていました。コースも、全く逆で、房総半島・東京湾から飛んできました。編隊を組まずに1機ごと1分おきに飛んで来ました。325機が基地を出発しましたが、東京上空には、298機でした。まず、数機が、木場・本所・浅草・日本橋の4ヶ所にM69より大きいナパーム弾を投下し、爆撃地域を定めました。

毎夜、数機が偵察に来て焼夷弾を落とすことが日課であったため、当初は空襲警報を出しましたが、その後は、警戒警報のみが発令されていました。なぜなら、空襲警報が発令されると、天皇陛下を起こし、防空壕に入っていたかなければいけなかったからです。少数機の場合は警戒警報だけで済ませようということから空襲警報が出なくなっていました。この日も、警戒警報でしたから油断をしていました。

夜中に低空を飛行機が駆け抜ける音が1分おきにし、母が外に出て確認したところ、火の手があがって焼けてくるとのこと。それを聞いて、慌てて外に出ます。いつも、地上10,000m上空のB29しか見ていなかったものが、地上1,000mのところを飛行する大きな機体が見えました。また、爆弾倉が空いているのを肉眼で確認でき、日本軍も機関砲で応戦していました。

私たち、親子3人は家の防空壕に逃げました。その防空壕は、頑丈だったために近所の人も集まっていました。空襲があまりに激しかったため、防空壕では安全ではないと思い、みんな逃げ場を求めて外に出て行きました。逃げ場がわからずにいた隣の母と娘も無理やり追い出し、通りがかった人々が防空壕の入り口に置いていった荷物を防空壕の中にしまい込み、家族3人で外に逃げようしました。

しかし、外は煙と火の粉で逃げられないため、再び3人で防空壕に戻りました。父は「外でバラバラに死ぬよりも中で一緒にいる方がいい」と。母は「ここで死ぬのは・・・」と。私は黙っていました。

そのうち、壕の前の長屋に火がついて、防空壕の戸にいろいろなものがドシ

ンドシンとぶつかってきました。この戸は、金属製ではなく、塩水に漬けた耐火木材を使用していました。鍵穴からも火がバーナーのように吹き込んできました。防空壕には飲料用の水があったので、戸が烧けないように水をかけていました。間もなく煙で息ができなくなってきましたから、布団の空気を吸ったほどでした。家族3人布団の中の少しの空気を吸っていました。しばらくして、外が静かになり、鍵穴から外を見ると、外はオレンジ色です。そこで、初めて、「助かった」と思いました。

空襲後

3月10日は、煙にまかれたせいか、ひどい頭痛で身動きが取れずにいました。翌11日に見た風景は壮絶なものでした。壕の前の川に浮かぶイカダも燃えているほど火が凄かったです。そのイカダや大通りには、多数の死体があり、それらの死体を片付けるのに1週間以上を費やしました。死体の山が遺骨になるまでには、2～3日燃えているほどでした。また、死体を片付けたアスファルトの上には人間の油が、黒く残っていて、なかなかとれませんでした。

私の家の防空壕に帰ってくる近所の人たちは、衣服が焼け焦げ、火傷を負っていました。特に、手の甲一面火ぶくれしている人は悲惨でした。返ってこない人もいました。隣組の34人の中で、一夜にして、11人が帰ってこなかったのです。また、最後に無理やり防空壕から追い出した母と娘さんも帰ってこなかったのです。私は長く追い出した責任を感じて、空襲の話をしませんでした。50歳前後から、話すことが親子の供養だと思って、話すことができるようになりました。

亡くなった人たちの荷物が防空壕に残りました。その中に、警報の度に壕に來ているお母さんと赤ちゃんのものがありませんでした。中身はほとんどオシメなど、赤ちゃんのもので、涙を誘う荷物でした。

B29にはM69の親爆弾が30個積載されています。つまり、1機のB29に1,140発のM69が積載されていることとなります。それが298機ですから、木場・本所・浅草・日本橋を結ぶ5km四方に340,000発を投下したこととなります。(1km四方に14,000発)



大本營(3月10日12時)発表

「本3月10日、0時過ぎより2時40分の間、B29、130機。主力をもって帝都(東京)に來襲。市街地を盲爆せり。右盲爆により都内各所に火災を生じたるも宮内省(宮内庁)主馬寮(馬小屋)は2時35分、その他は8時ごろまでに鎮火せり。現在までに判明する戦果は次の如し。撃墜15機、損害与えたるもの約50機。」

まず、この発表は、來襲機数が大幅に違います。また、都民のことより先に、

天皇の馬小屋のことが発表されています。与えた損害については、米軍発表と近いです。米軍は、爆撃の際には、基地までの海上に潜水艦、水上飛行艇を点々と置いていたため、この日は不時着した40人を救助しています。しかし、助けられた40人は、10万人を殺して来た人たちです。

その後

米軍は、二日後に名古屋、その翌日に大阪を東京と同様の方法で爆撃します。大都市の空襲は6月半ばまでで、それ以降は、中小都市（鹿児島、四日市が最初）へと爆撃対象が移りました。

無差別爆撃の司令官、ルメイ少将は「もしアメリカが敗戦国だったら、いの一に私が戦争犯罪人として裁きを受けるだろう」と言っています。自分のやったことがわかっているようです。

最後に

戦争のやり方に正義のやり方というのはないのです。ベンジャミン・フランクリン の言葉に

「良い戦争と悪い平和は、この世にあったことはない」という言葉があります。いい言葉です。戦争に良いのはなく、全部悪いのです。平和は、全て良いのです。

最後に、平和のために私たちは何をすべきかについて、若い人にぜひ伝えたい言葉がありますので、それを述べまして、終わりにしたいと思います。

これから言う文章は、私の勤務していた中学校の修学旅行の時に広島慰霊碑の前で、生徒が読んだ慰霊文の最後の部分です。この文章を私は名文だと思っています。これをぜひ、皆さんに伝えようと思います。

「今、平和のために私たちにできることは、

自然を大切にする。

一生懸命勉強する。

同じ人間を差別しない。

友だち同士お互いに助け合う。

そして自分自身の夢を大切にするなどです。」

これを私の本日の最後の言葉にしたいと思います。長い間お聴きいただきありがとうございました。

都市への無差別爆撃はナチス・ドイツによるスペインのゲルニカに対するものが最初（1927）日本軍は、中国の重慶に対して行ったものが知られている。（1938～41）

ベンジャミン・フランクリン

アメリカ独立戦争時の外交官、科学者としても知られている。